

奈良市音声館 施設活性化方針

令和 6 年 11 月作成

1. 方針の目的・趣旨

奈良市音声館(以下「音声館」という。)は、平成 6 年の開館以来、市の文化振興につながる様々な取り組みを行ってきました。特に、わらべ歌の普及や伝統的な芸能の振興については、多くの市民の参画を得ることができました。

しかしながら、開館から 30 年近くが経過した現在、社会環境の変化により文化事業に対するニーズも変わり、施設利用者や事業参加者の減少など、施設運営上の課題を抱えるようになりました。

音声館を、市民の文化の向上及び市の魅力発信につながる公共文化施設とするためには、課題解決に有効な取り組みを計画的に進めていくことが必要です。本方針は、施設の目的やコンセプトを示すことで、令和 7 年度以降の施設の運営方針を明確にしていこうとするものです。

2. 音声館のこれまで

■ 音声館の開館について

平成 4 年度に策定された『ならまちにぎわい構想』に基づき、平成 6 年 10 月に町家特有の『つし 2 階しもたや』形式構造の音声館が開館。開館当初は市の外郭団体である『ならまち振興財団』が管理運営を行い、伝統的な芸能やわらべうたの調査、研究、普及を目的とした事業を実施。また初代館長は、わらべうたによる地域の文化向上と活性化への取組により『サントリー地域文化賞』を受賞された声楽家の荒井敦子氏が務めました。

具体的には音声館の職員による『ならまちわらべうた教室』の開催や、奈良の民話を題材にした創作ミュージカル『二月堂良弁杉』や様々なコンサートを開催。また県内各地へ職員が出向き、わらべうたを約 300 曲を採譜し、その成果発表したならまちでのイベントに 1 日 5000 人が参加する等、ならまちでのにぎわいへの大きな成果を発揮しました。

これらの取り組みにより、平成 8 年には音声館は奈良市の魅力の代表格と報道されたこともあります。

■ 主な成果物

- ・ 大和のわらべうた全集1CD、カセットテープ(19 曲収録)CD を 2,000 円で頒布
- ・ 大和のわらべうた全集2CD、カセットテープ(17 曲収録)CD を 2,000 円で頒布
- ・ 大和のわらべうた全集別巻「いきているわらべうた ならのうた(奈良のこどものうた、吉野のこどものうた)CD(87 曲収録、1977 年に日本コロムビアより発売されたレコードの復刻版)(絶版)
- ・ 大和のわらべうた冊子(70 ページ 87 曲収録)この冊子のわらべうたは牧野英三氏(奈良教育大学名誉教授)が昭和 30 年代から 50 年代に採譜されたものや、奈良市教育委員会による『奈良市の文化財調査中間報告』、また音声館の職員が採譜した曲を収録している。現在も希望者へ無料配布。

■ 創作ミュージカル『二月堂良弁杉』

- ・ 平成 7 年 世界建築博覧会トリエンナーレ奈良'95(ならまちセンター、音声館)
- ・ 平成 10 年 奈良市市政 100 周年 行基菩薩御遠忌奉納公演(東大寺大仏殿)
- ・ 平成 13 年 福井県小浜市公演(小浜市文化会館)

- ・ 平成 14 年 東大寺大仏開眼 1250 年奉納公演(東大寺大仏殿)
- ・ 平成 27 年 音声館開館 20 周年記念・第 100 回記念公演(東大寺金鍾ホール)
- ・ 令和 6 年 第 120 回ラスト公演(音声館)

■ その他、これまで実施した主な事業

- ・ ならまちわらべうた教室
- ・ 世界の民謡、わらべうたを訪ねて
- ・ エントランスコンサート、エントランスギャラリー
- ・ 万葉「音」紀行
- ・ 世界音楽の旅
- ・ 万葉講座

3. 現状と課題

(1) 音声館の現状

■ 来館者数について

現在と同じ方法で来館者の計上をはじめた平成10年度以降では、平成13年度が8万 4865 人と最も来館者数が多く、その後減少傾向となり、平成 21 年度に 6 万人を下回りました。平成 22 年度からは一転し上昇傾向となり平成 24 年度には 7 万 1754 人となり、平成 30 年度まで 6 万人台を維持しました。令和元年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数が激減し、令和 5 年度の来館者数は 4 万 3 470人でありました。

また、館が主催する事業への参加者数は平成24年度から平成30年度までは年度平均約1万657人の参加でしたが、コロナ禍後の令和元年度から令和5年度では約4432人でした。

貸館利用において、市民や文化団体が主催するイベントへの参加者数は、平成24年度以降でみると、平成30年度の 1 万 1382 人が最も多く、令和5年度は8610人でした。

<平成 6 年度～令和 5 年度 来館者数等一覧(単位:人)>

	H6※	H7※	H8※	H9※	H10	H11	H12	H13	H14
来館者数	12,241	22,754	17,663	17,987	61,418	70,032	77,087	84,865	80,466

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
来館者数	73,137	74,731	64,662	61,096	64,766	61,481	59,555	66,141	67,455

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
来館者数	71,754	62,446	69,895	66,654	61,455	60,017
事業参加者数	11,111	12,803	9,865	11,148	13,905	8,849
貸館利用者数	7,571	6,789	7,438	6,486	5,687	7,784
その他利用者数	53,072	42,854	52,592	49,020	41,863	43,384

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
来館者数	61,894	58,102	33,377	39,847	41,752	43,470
事業参加者数	6,922	7,587	2,907	3,168	6,016	5,638
貸館利用者数	11,382	10,117	4,205	6,409	5,923	8,610
その他利用者数	43,590	40,398	26,265	30,270	29,813	29,222

※ 平成6年度から平成9年度までは、その他利用者数を計上していないなど、平成10年度以降と計上方法が異なる。

■ 稼働率について

音声館内の各部屋が、どのぐらい使用されているかを、区分(午前・午後・夜間)ごとで整理したものが下表です。最も稼働率が高いのはホールで、もっとも低いのは個人レッスン室です。

<平成 24 年度～令和 5 年度 施設部屋別稼働率(単位:%)>

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
ホール	46.5	49.7	50.5	43.3	46.8	53.1	54.6	57.0
プレイルーム	26.8	25.2	41.3	40.5	41.4	42.6	45.8	48.7
個人レッスン室	3.5	3.9	8.8	10.8	7.1	5.3	6.6	8.2
会議室	20.6	14.2	14.4	17.1	17.1	18.1	22.6	22.4
和室	15.6	13.0	11.5	10.8	12.4	11.5	13.9	14.7

	R2	R3	R4	R5
ホール	28.0	30.6	48.0	46.0
プレイルーム	41.0	40.7	24.5	25.3
個人レッスン室	6.0	9.3	9.1	18.9
会議室	18.0	20.3	22.4	26.8
和室	8.0	10.0	15.3	13.8

■ 主催事業について(令和 2 年度～令和 5 年度)

音声館ではこれまで「わらべうた教室」や「奈良の民話普及事業」などを中心に事業を実施してきました。令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの事業において参加者数が減少するなか、ワークショップ形式(奈良の民話普及事業)や動画配信など、実施方法に工夫をしながら進めていきました。

① わらべうた教室

開館当初からの事業。親子や友達と奈良に伝わる「わらべうた」で遊ぶことを通じて、奈良の歴史や文化、まちへの愛着を育むための事業。年齢別のクラスや大人を対象としたコーラスクラスもあります。

(のべ人数)

	R2	R3	R4	R5
計画	4,820	3,745	3,155	4,500
実績	935	707	1,475	2,893
達成率	19%	19%	47%	64%

② 奈良の民話普及事業

ミュージカルや紙芝居等の公演を通じて、奈良の民話の普及・伝承に取り組み、ふるさと奈良への愛着と関心を育むための事業です。

(のべ人数)

	R2	R3	R4	R5
計画	660	480	1,220	1,330
実績	1,016	1,895	1,356	2,194
達成率	154%	395%	111%	165%

③ 日本の伝統文化を学ぼう

邦楽や伝統文化を手軽に学べる場を提供するとともに、日本の文化への関心を育み、普及・伝承へとつなげる事業。様々な対象の事業があります。

(のべ人数)

	R2	R3	R4	R5
計画	1,120	1,130	1,200	1,100
実績	664	732	875	971
達成率	59%	65%	73%	88%

④ その他

市民や観光客が気軽に文化に触れる機会を設ける事業のほか、市民が文化活動に参加する機会を提供する事業、そしてアウトリーチ活動も展開しています。(ミュージックフェスティバル、スタインウェイを弾いてみよう、エントランスコンサート、出張わらべうた教室等)

(2) 音声館の課題

■ 施設における事業効果と運営コストのバランス

施設の運営にかかる主な費用は指定管理料です。令和4年度には、年間約4,900万円が、施設の改修や修繕を除いた、施設の運営費としてかかっています。一方で、施設や設備の使用料は約200万円であり、音声館の支出額に対する収入の割合(約4%)は、市の他のホール施設(なら100年会館、ならまちセンター、西部会館市民ホール、北部会館市民文化ホール)に比べて低くなっています。

また、施設利用者数を効果と捉えた場合の、費用対効果についても、市のホール施設のなかで最も低い結果となっています。

<音声館 平成30年度～令和5年度 支出及び収入一覧(単位:千円)>

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
支出(指定管理料)	59,067	60,300	47,795	47,600	48,503	48,317
収入(使用料等)	2,761	2,511	1,561	2,044	1,937	2,490
支出－収入	56,306	57,789	45,934	45,556	46,566	45,828

*指定管理者による自主事業は除く。

*施設の改修にかかる経費は除く。

<令和5年度 奈良市ホール施設 収支及び施設利用者数一覧>

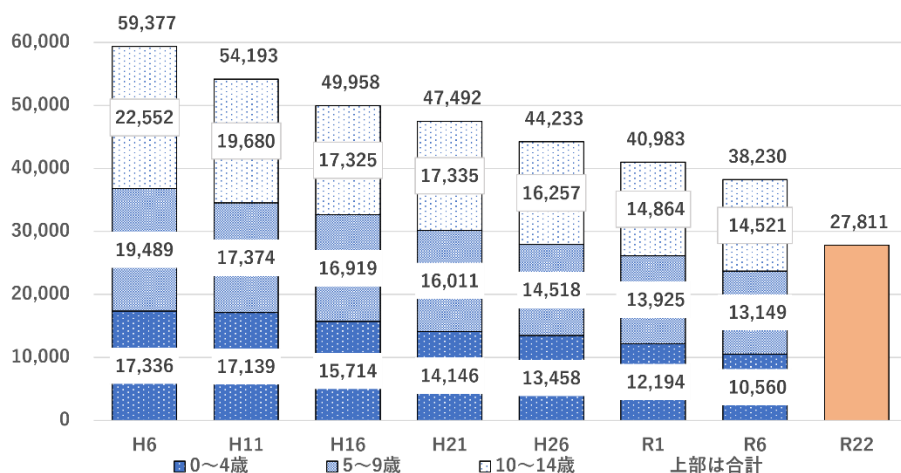
	支出 (千円)	収入 (千円)	支出一収入 (千円) 【費用】	施設利用者数 (人) 【効果】	効果／費用
音声館	48,318	2,490	45,828	14,248	0.3
なら100年会館	377,280	51,222	326,058	206,791	0.6
ならまちセンター	106,014	5,107	100,907	111,041	1.1
西部会館市民ホール	31,979	12,864	19,115	32,561	1.7
北部会館市民文化ホール	22,705	6,054	16,651	44,126	2.7

*支出はすべて指定管理料のみを計上(設備改修・リースや西部会館管理組合負担金除く)

*施設利用者数は、来館者数のうちその他利用者数を除いた数

■ 社会環境の変化(少子化等)により、従来通りの事業に対するニーズが減少している

音声館では、わらべ歌に関する事業をはじめ、多くの取組みで子どもを対象としてきました。開館当時の市の年少人口が5万9,377人であったのが、令和6年4月には3万8,230人となっています。今後も少子化が進むことが予想されるなかで、市民のニーズに対応できるような取組みを進めていく必要があります。



■ 将来的な施設や設備の維持コスト増加

平成6年の開館から30年近くが経っており、舞台以外の各設備の老朽化も著しく、安全・安心にご利用いただくためには、維持コストが増加していくことが懸念されます。ホールには舞台設備があり、照明や音響等の定期的な改修や更新が必要となり、将来的な財政負担についても考慮していく必要があります。

(3) 文化(文化芸術)に関するアンケート調査について

■ 文化(文化芸術)に関するアンケート調査の概要

令和6年5月22日から6月5日まで、奈良市政モニター(315人)を対象に、市の文化施策の参考とするため、文化芸術や文化施設に関するアンケート調査を行い、212人の方から回答をいただきました。

■ 音声館の利用経験について

同アンケート調査では市の文化施設の利用状況について質問しました。音声館の利用経験がある人は回答者のうち18.4%で、「名前を知っているが利用したことはない」と回答した人は30.2%、「名前も知らなかった」と回答した人は50%でした。

また、「名前を知っているが利用したことがない」と回答した人に、その理由を質問したところ、「魅力的な文化芸術イベントがないから」と回答した人が59.4%と最も多く、次いで「施設が遠い、または交通の便が悪いから」と回答した人が21.9%でした。

Q.音声館の利用状況について教えてください。

n=212	
回答	率
1. よく利用する(おおむね年1回以上)	0.9%
2. 利用したことがある	17.5%
3. 名前は知っているが利用したことはない	30.2%
4. 名前も知らなかった	50.0%
無回答	1.4%

「名前は知っているが利用したことはない」の理由(複数回答)

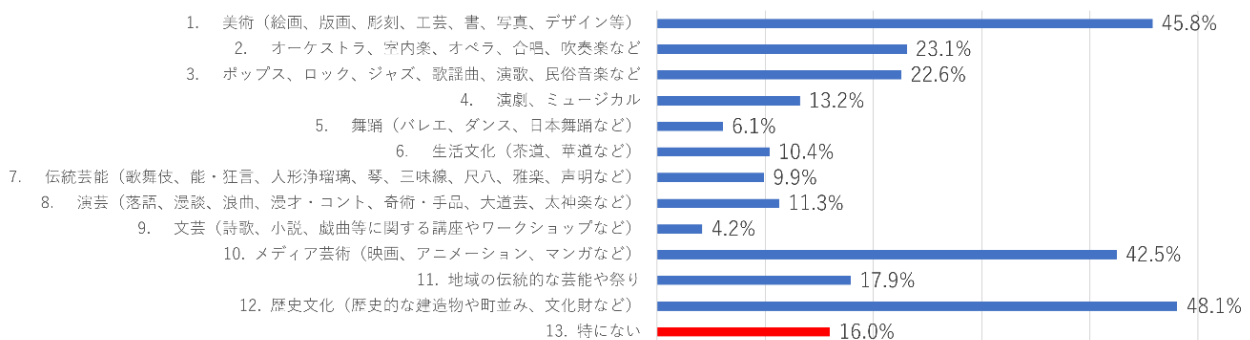
回答	率
1. 魅力的な文化芸術イベントがないから	59.4%
2. 施設が遠い、または交通の便が悪いから	21.9%
3. 使用料・観覧料等が高いから	3.1%
4. そもそも文化に興味がないから	7.8%
その他	18.8%

■ 文化芸術に関するニーズについて

同アンケート調査の設問「あなたは過去1年間で、文化芸術を直接鑑賞したものはありますか」に対して、回答者のうち16%が「特になし」と回答しています。その理由として最も多かったのが「鑑賞するきっかけがなかったから」でした。

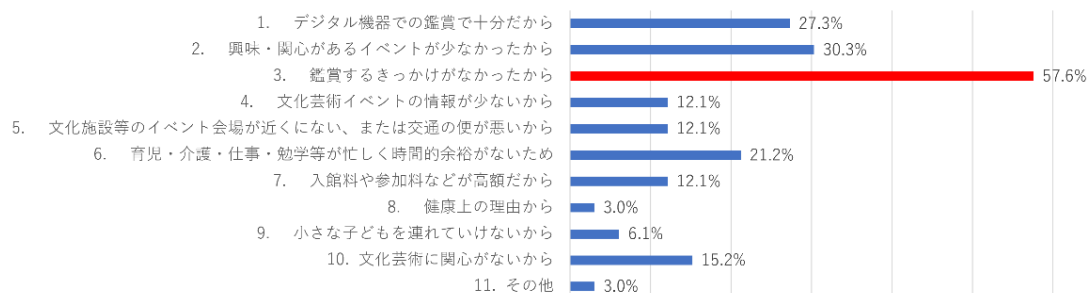
また、設問「あなたは、過去1年間、自ら文化芸術活動に取り組んだことがありますか」に対して、回答者のうち73.6%の人が「特になし」と回答しています。その理由として、44.2%の人が回答「鑑賞だけで満足しているから」を選択し、また42.3%の人が回答「活動のきっかけがないから」を選択しています。

Q.あなたは過去1年間で、文化芸術を直接鑑賞したものはありますか。(複数回答)



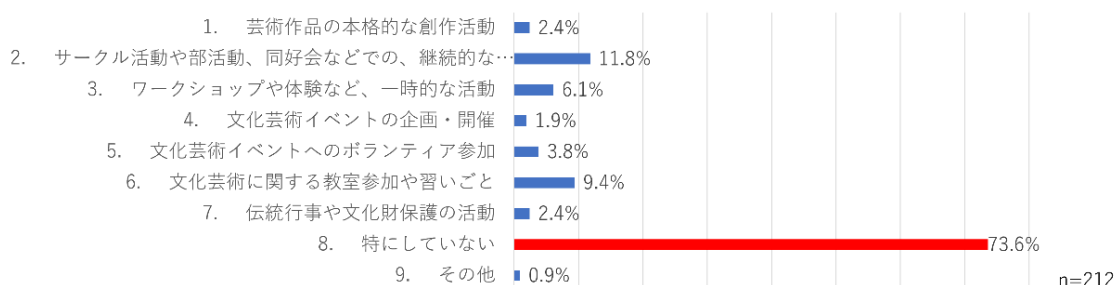
Q. (「特になし」を選んだ方) 鑑賞しなかった理由はなんですか。(複数回答)

n=212



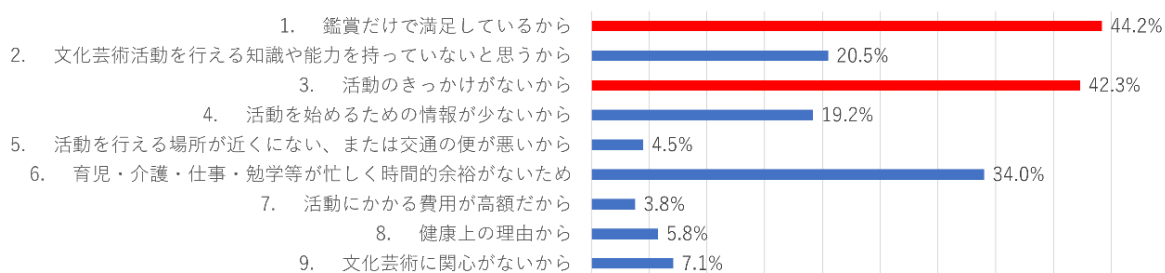
n²=212

Q. あなたは、過去 1 年間で、自ら文化芸術活動に取り組んだことがありますか。(複数回答可)



n=212

Q. (「特にしてない」を選んだ方) 文化芸術に関する活動をしなかった理由 (複数回答)



3 n=212

4. 音声館のめざす姿【令和7年度以降の施設方針】

(1) 音声館のあり方検討について(令和6年度)

令和6年度4月に「奈良市文化振興計画推進委員会」に、「文化施設のあり方検討部会」を設置するとともに、シンポジウムやワークショップ、アンケート等を開催し、今後、音声館が文化施設としてめざすべき姿について検討を行いました。

<音声館あり方検討の取組み>

実施時期	内容
令和6年	
4月19日	第1回文化施設のあり方検討部会
5月22日～6月5日	文化(文化芸術)に関するアンケート調査
6月22日	文化施設とまちづくりシンポジウム
	第2回文化施設のあり方検討部会
7月23日	音声館の未来をひらくアイデア会議
7月29日	第3回文化施設のあり方検討部会
8月2日	音声館の未来をひらくおもしろ会議
9月27日	第4回文化施設のあり方検討部会
10月18日	第5回文化施設のあり方検討部会

(2) 施設に期待されること

音声館のあり方を検討するうえで、市民や利用者の方に加えて、これまで施設を利用したことがない方にも意見をいただきました。下記は、検討のなかで寄せられた施設に対する期待のうち主なものです。

- 文化的コモンズ※の形成
- いつでも誰でも楽しむことができる
- 観光客や訪日外国人も訪れやすい
- 暮らしに根付いた文化のアーカイブ
- 様々な「クロスオーバー」がうまれる
- 持続可能な施設運営

※本方針における文化的コモンズとは、地域の誰もが自由に参加でき、文化に触れることの喜びを分かち合えるような、共有の場所や活動等のことをいいます。

(3) 音声館の新たなコンセプト

「奈良市音声館条例」に基づき、前項に挙げた施設への期待を踏まえながら、令和 7 年度から音声館は以下の4つのコンセプトを掲げて施設運営を進めていきます。

伝統から創造を

これまで音声館では伝統文化を中心とした事業を推進してきました。
これまでの実績をふまえながら、現代的な表現活動など、幅広い文化分野での創造的な取り組みを進めます。

「きっかけ」がうまれる場所づくり

アンケートによると、文化芸術の鑑賞や活動において「きっかけ」が少ないことが見て取れます。
音声館では、文化に触れる体験を重視し、交流を促進する取り組みを行います。

多様な主体が関わり合う施設づくり

地域の文化的な営みの総体として「文化的コモンズ」を形成するために、
様々な施設、場所、組織、活動が主体的に関わり合いながら施設を運営していくことを目指します。

奈良の文化的魅力の国際的な発信と相互交流

音声館がある「ならまち」は訪日外国人をはじめ、多くの観光客が訪れる場所です。
音声館から、奈良の文化的魅力を積極的に発信するとともに、
文化を通じた相互理解の深化を進めていきます。

(4) 今後の事業について

音声館の事業は、奈良市音声館条例及び奈良市文化振興条例、第 2 次奈良市文化振興計画に基づいたうえで、上述のコンセプトに沿って取り組んでいきます。

事業内容については、市と関係団体、関係者等が協議し、事業の目的や効果を検討したうえで企画立案を行っていきます。